

海燕

うみつばめ

第 3 6 号

2008. 1. 2 6

発行人／石井 暎禧

編集長／辻田 征男

副編集長／高本 哲男

石心会グループ

医療法人財団 石 心 会

医療法人社団 光 和 会

社会福祉法人 石心福祉会

医療法人社団 新 緑 会

〒212-0013 川崎市幸区堀川町580ソリッドスクエア東館 4F

TEL : 044-511-2266(代) FAX : 044-540-1135

<http://www.sekishinkai.or.jp>

社会医療法人への道（そのⅠ）

理事長 石井 暎禧

今日、日本の病院医療の崩壊が叫ばれています。私達もその影響を受けている事は間違いありません。しかしながら、独立採算の民間病院では医療崩壊はとっくに始まっていて、多くの病院がすでに地域の急性期医療から撤退してしまっているのです。その中で、この医療崩壊を勝ち抜いてきた石心会では、昨年度比でみるとグループ全体の職員数は医師、看護師、コメディカル等1年間で100人近く増えており、医業収入も毎年増加しています。実は、この反対の事が、今、公的病院、なかんずく地方の自治体病院などで起こっており、実際、地域医療にとって深刻な影響を及ぼしているのです。その理由は、国による診療報酬のマイナス改定と自治体財政の危機から来る補助金の削減にあるのは誰もが認めている事です。そう考えると、私達の病院で起きている仕事の過酷さは、実は急性期医療からすでに撤退してしまった民間病院のしわ寄せに加えて公的病院が地域医療を担えなくなっている事のしわ寄せに起因している事がわかります。

このような状況の中で、国は、公的病院の赤字が自治体の財政を崩壊させかねないとの認識を持っています。従って補助金が

この先増えることはありません。そこで切り札として、民間病院の中で、医療崩壊をたくましく乗り切った医療法人に様々な形で公益医療を担わせようと考えているのです。それが社会医療法人の創設です。社会医療法人になる要件は特定医療法人・特別医療法人のような非営利法人でかつ公益性が高い事。公益性が高いとは特に救急医療で地域の中心となる機能を発揮している事です。そして、特典としては①保険収入については非課税とする。②地域医療計画に於いて公的病院と同等に扱うなどです。今、石心会では国税である法人所得税を利益の22%、つまり2億円ほど払っています。これがゼロになるだけで非常な特典です。やっと、私達の前途にきらりと光る光明が見えてきた、苦勞が報われる時がそこまで来ているというものです。社会医療法人の募集は本年4月から行なわれる予定で、私達は、これに当然のことながら手を上げます。私達の公益性の証は救急医療を担っていることです。その事をはっきり掲げるためには、①救急患者を断らない事 ②遅れている小児救急の体制を整備する事が重要です。

《次号に続く》

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》（1901）に由来しています。

その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鳴らの群を尻目に、

海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

（編集部によるダイジェスト）

★トピックス①

(仮称)狭山腎クリニック着工

狭山病院 診療副部長・内分泌代謝内科部長 小野田 教高

狭山地域の透析施設の中核をなす“さやま総合クリニック透析室”では、現在170名強の維持透析患者を診ておりますが、既にcapacityも目いっぱい、新規受け入れが困難な状態が続いております。この度、病院とクリニックの中間地点(いきいき訪問看護ステーションの跡地)に、本年10月末のオープン目指して、地上4階建ての新しい透析施設が誕生することになりました。



〈本年10月オープン予定の(仮称)狭山腎クリニック完成予想図〉

寒さが凍りつくような冬晴れの12月19日、地鎮祭が行なわれ、工事の安全と良い建物が立つ事を心から参加者のみなで心から祈願しました。この席で、施主である島崎家から、これまで地域医療に貢献してきた石心会に対しての、感謝と今後に対する大きな期待の言葉を頂きました。

長年に維持透析を続けることは、究極は

合併症との闘いの日々でもあります。幸い狭山病院には、透析患者を快く診療してくれる各科のスタッフが揃っております。また、これからの時代は、未然に合併症を防ぐために、看護師、臨床工学技士はもちろん、栄養士、薬剤師他、多くの職種の協力が必要です。初年度のクリニック運営のキャッチフレーズを、さ・や・まに決めました。

意味は、さわやかなのさ(職場にさわやかな風が吹くような自由に発言できる雰囲気をつくる、やさしさのや(患者さんにやさしく接する)、まじめのま(まじめに医療に取り組み、自己研鑽に精進する)です。

より使いやすい施設となるよう、完成の瞬間まで、皆様のご意見を拝聴したいと考えております。どうかよろしくお願い申し上げます。



★トピックス②

～さいわい鹿島田クリニック～

透析ベッドを大増床、女性外来を新設

さいわい鹿島田クリニック 院長 朝倉 裕士

この数年、さいわい鹿島田クリニック透析患者数は予想を上回って急速に増えており、2年間で、25名(16%増)の純増になっています。そのため、施設は満杯まであと数人しか受け入れ余地がありません。従って、川崎幸病院の移転までの間の患者増を吸収するためには、鹿島田クリニックが大幅に増床するしかないと言う結論に達し、今回の増床計画となりました。この度の計画では既存のベッド74床に28床を追加し、合計102床として平成20年2月に稼働開始予定となっております。現行の4階フロアレイアウトを全て見直し、透析を継続しながら工事を実施する方法の検討、機能、アメニティーの低下を極力避けた形で、無駄な空間を限界まで切りつめた結果、上記の増加ベッド面積を確保することが出来ました。この事で、今後も、以前同様、紹介元医療機関の期待に応え、受入を断らないで済みます。完成の暁には、受入可能患者数は+約70名、総数で250名以上の患者を受け入れられる施設となります。

課題としては、今後とも、川崎市幸区、中原区の透析患者さんは増加傾向にあり、また、他施設よりの転院希望も多いので、新幸病院開設まで、このベッド数で十分であるかが若干不安要素として残っております。また、どの事業所でも同様ですが、スタッフ(特に看護系)不足も深刻な問題です。これらのハードルを乗り越えつつ今まで以上に安全で充実した施設作りをおこなって行きたいと思ひます。

なお、3階外来部分のレイアウトも一部見直しましたので、ご紹介いたします。外来は周辺需要に応えるため女性医師、スタッフによる『女性外来(仮称)』の展開を予定しており、待合フロア、診察室共に専用区画を設置し、この診療科に特に求められているプライバシーの確保に十分配慮した空間が実現する予定です。

透析、外来共に新たな環境での平成20年度となりますが、皆様のご協力の下で地域に誇れる施設を作って行きたいと職員一同張り切っています。

★トピックス③

～川崎幸病院・川崎幸クリニック・狭山病院～

最新機器導入によって高度急性期医療機能をさらに推進

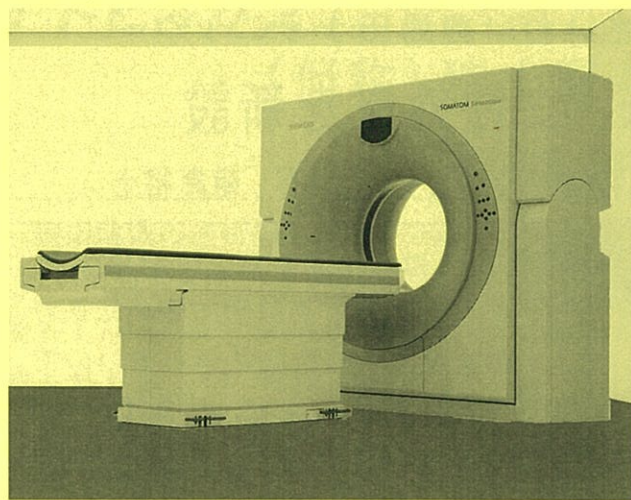
■高速、高精細検査画像による
救急医療等の充実、

新鋭MDCT、MRIの稼働開始!

川崎幸病院・川崎幸クリニック

昨年11月、川崎幸病院に最新画像検査機器である16列MDCTと1.5T(テスラ)

MRIが、川崎幸クリニックに64列MDCTと0.4T MRI(オープン型)が導入された。川崎幸病院の16列MDCTは従来機種に比べ撮影速度が大幅に高速化されるとともに、ボリュームデータの取得により3次元画像



〈川崎幸クリニックに導入された64列MDCT〉



〈川崎幸病院に導入された1.5T MRI〉

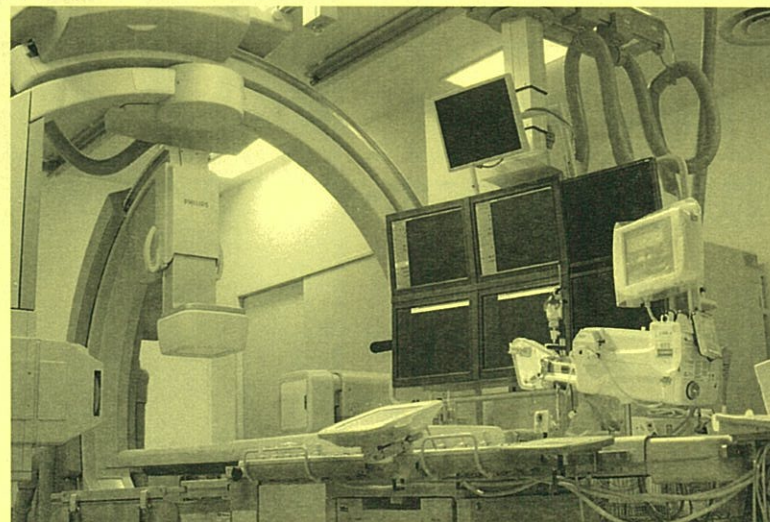
の構成が容易になっており、特に救急医療における迅速な診断と治療を可能にするものである。また、1.5T MRIはパワーの増大によっていっそう高精細な検査画像を高速に得られるようになり、整形外科領域のみならず、全身癌検索などにもその性能を発揮する。また、川崎幸クリニックの64列MDCTは、従来はカテーテルでしか対応できなかった冠動脈等の循環器系検査をCTによっても可能とするもので、これまで

発見が難しかった無症候性心筋虚血などの早期診断に結びつくものと期待されている。さらに、0.4T MRIは患者さんの心理的負担が少ないオープン型であり、スムーズな検査実施につながるものと思われる。今後、両施設ではこれら最新機器の機能をフルに活用しながら、より高度な検査体制を提供、高度急性期医療をさらに推進するとともに、これをアピールすることによって、地域の開業医をはじめとする他医療機関との連携をいっそう促進させる考えである。

■新デジタルアンギオ装置を導入

狭山病院

一方、狭山病院では、昨年10月1日から最新アンギオ装置(心臓用バイプレーン)が稼動を始めた。今回導入されたのは、フラットディテクタ搭載の心臓用バイプレーン(二方向同時撮影)装置で、従来よりも格段に鮮明な高解像度画像が得られるとともに、放射線被ばく量の低減化が図られている。狭山病院では、この装置によって、経皮的冠動脈形成術(PCI)などをはじめとする循環器領域の治療をさらに強化、地域中核病院としての機能をさらに充実させる。



〈狭山病院に導入されたデジタルアンギオ装置〉

《読書のすすめ》

心に残る本達

本部事務局長 辻田 征男

私の雑読の歴史の中からこの数年以内に出版された読みやすく面白い本を紹介します。

■チーム バチスタの栄光

海堂尊:著 宝島社

もう既に読んだ人も多いに違いない。現役外科医「海堂尊」が書いたミステリー小説で、「このミステリーがすごい」大賞を受賞した作品。28万部売れたといわれ、ついに本は文庫本化され今やキヨスクでも売られている。最近映画化もされた。だが、医療人ならぜひ原作で読んで欲しい。実は、現役医師ならではの細部の描写のリアリティがすごいからだ(某外科医の保証付)。

大学病院で起きる3連続術中死。手術は「拡張型心筋症のバチスタ手術」。当初事故かと思われた本件は実は密室における完全犯罪をねらった殺人事件だった。

だれが? どうやって? なぜ? 息詰まる迫力! 最高に興奮する一冊!!

日ごろ手術室に立ち入る機会が少ない職員にこそぜひ読んでもらいたい。

■コンクールでお会いしましょう。

一名演に飽きた時代の原点

中村紘子:著 中公文庫

中村紘子さんといえいわずと知れた日本を代表するクラシック音楽のピアノ演奏家の一人であるが、随筆家としても一流なのである。近年、海外の著名な音楽コンクールで日本人演奏家が次々と上位入賞しているが、多くのコンクールで審査員を務める著者がその内幕を生き生きと描写しているところに、大いに興味を惹かれる。この本は、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した「チャイコフスキーコンクール」の続編のような作品であるが、他に「ピアニストという蛮族がいる」等、ともかく文章が抜群に上手で、音楽好きのみならず、読めば最高におもしろい。読み始めたならもう止まらない事をお約束する。

その文才は、夫の芥川賞作家である庄司薫氏

も顔負けの体であるが、私は最近、庄司薫が「中村紘子」とペンネームを変えたのではないかとひそかに疑っている。

■ローマ人の物語

塩野七生:著 新潮社 新潮文庫

「職業には貴賤はないが、生き方には貴賤はある」こんな挑発的で魅惑的な言葉がちりばめられていると知ったならば、この本を手に入る人はもっと多くなるに違いない。ローマ在住の著者が15年がかりで書いたものであるので何しろ長いが最高に面白い。

人類はあらゆる政治形態の実験を2000年前の古代ローマでやり遂げたという論を吐く人がいるが同感である。古代ローマが、世界史上唯一無二の大帝国を築きバックスローマーナと呼ばれた200年余にわたる平和と繁栄を築き上げた背景としてclementia(ラテン語で寛容の精神)という政治哲学があった。特に宗教に関しては、もともと多神教社会であったローマは、被征服民族の宗教を許容したため一時期、数十万という神が存在したといわれる。ローマ皇帝とはこれらの神々を祭る神祇官(神主のようなもの)でもあったのである。このローマが北方蛮族の大攻勢(ゲルマン民族大移動)で滅ぶのだが、それには国家の内なる崩壊要因があったのである。その要因とは? clementiaはどうなったのか?

ここから先は本を手にとって読んで頂きたい。この大作、私は「人とはいかなる生き物であるか?」と勝手に副題をつけて読んでいます。

《その他おすすめの本》

■勝海舟 私に帰せず

津本陽:著 幻冬舎文庫

■漫画「美味しんぼ」

1~100巻

雁屋哲:原作

花咲アキラ:作画

ビッグコミックス社



《趣味探訪》

『一所懸命、全力投球！』

川崎幸病院 副院長・消化器病センター長 関川 浩司

今回、本誌編集部より小生の趣味について紹介を、との依頼がありました。これまで本コーナーに登場されている方々の趣味を拝読しておりますと何か一つの事に長年取り組み、プロ級の腕を持っていらしている紹介が多くありました。この点では私は何かを極めていくという訳ではなく、むしろ好奇心の赴くままにいろいろなことにチャレンジし、結果として多種多様な趣味を持つことが出来たということに過ぎません。したがって本コーナーに、「趣味」として「探訪する」旨の



〈駅伝チーム「Happy」の皆さんとともに〉

記事が掲載されることについては少なからず躊躇し、また恐縮するものですが、強いて言えば多少、他の方よりは多趣味かな？という点から選ばれたのではないかと勝手に解釈し、小生の多趣味の動機、原点について本誌の読者の方々に読んでいただければと思い紹介する次第です。

さて趣味をご紹介する前に私の好きな言葉についてご紹介します。それは「一所懸命」と「めりはり」ですが、若い時分からこの2つを念頭におきながら仕事と遊びをともに徹底的にやることを常としてきました。というのも何事も「一所懸命」するためには、オンオフの切り替えが不可欠であり、その切り替えによって仕事も遊びもともに集中して行えると思っているからです。私はそういう考えから、「より良く働くため」に様々な趣味にチャレンジしてきたのかもしれませんが。それでは私の趣味のうちまずは動的なもの、すなわちスポーツから紹介させていただきます。

＜体育会系編＞

■テニス：これはテニス部だった学生時代から、医師になり現在に至るまで絶えず私の傍らにありました。すなわち三十数年の経歴ということになります。ほんとにたまにやる程でありますからその実力の程は決して自慢できるものではありません。しかしながら私のスポーツ歴としては一番長いこともあり、例えば家内ともテニスを通じて知り合いましたし、また子供たちにも彼らが幼いころからラケットを握らせてきた関係からつい最近まで年に一度は一家4人でダブルスを行う機会もありました。現在は時間の許す限り川崎幸病院施設課の斉藤氏が主宰する当院のテニス部合宿にも参加させていただいております。

■走り（ジョギング、マラソン）：始めたのは約15年前、私が38歳の時。当時私のチームの研修医があるマラソン大会に出場、彼の完走の感動に私が影響されたのがきっかけでした。それでは自分も、と思ったものの、急に長距離を走れるものでもなく当時は1kmから走ることを始めたのです。それから徐々に距離を伸ばし、ついにはその年の12月第2週の日曜日に開催された第20回ホノルルマラソンにも参加、完走できました（記録は5時間1分でしたが…）。また、福島時代には「郡山シティマラソン（10km）」に欠かさず参加していました。これは毎年4月の今で言う「昭和の日」に開催されるのですが、この日はちょうど私の誕生日にあたり、私にとっては毎年の健康のバロメータともなり、また一つの区切りにもなりました。現在は愛犬ベックを連れての散歩兼小走りでジョギングを楽しんでおりますが多摩川のはるか彼方にどっしりとした富士山が見える日などは本当にすがすがしい気分になります。また一昨年には川崎幸クリニックの事務 山口氏の主宰する駅伝チームにも参加し足手まといにならない程度に多摩川駅伝大会、横田基地駅伝大会や新宿ハーフマラソンなどに参加。走りそしてアフターの飲みも楽しませてもらっています。

■スキー：福島時代、シーズン中には週末暇を見つけてはゲレンデに出掛けておりました。皇太子妃雅子様で一躍有名になった箕輪スキー場が自宅から一時間ということもあり、そこに一人で車を飛ばし一時間半で連続8本滑ってくるというそれは忙しい滑りを毎年続けていました。

■水泳：これは40歳から取り組み始めました。当時は仕事がますます忙しくなってきた頃でしたが、加齢による体力の衰えを恐れ？体力、気力の充実のため、あえてチャレンジ。始めはわずか100mからでしたが、その後500mまで泳げるようになり、今ではできるだけ週に一度は近くのスポーツクラブで1kmノンストップの泳ぎを楽しむようにしております。今年も新年早々1月3日に泳ぎ初めをたつぷりと味わいました。

以上、いわば「動」の趣味をご紹介しましたが、次に「静」の趣味についてお話ししたいと思います。

＜文科系編＞

■絵画鑑賞：絵を描くのは子供の頃からまったくの下手でしたが美術鑑賞が好きだった母の影響もあり、絵画の鑑賞はいつの間にか趣味の一つになっていました。特にオランダ留学時代には、あちらの美術館が日曜日に無料であったこともあり幼子を引き連れながらオランダ、ベルギー、フランスなどの美術館にはよく足を運びました。特にモネ、ユトリロ、ロートレック、セザンヌ、シスレーなどの印象派が好きですし、またパリのオルセーやオランジェリー美術館は私のもっとも愛する場所でもあります。福島にいるときにも時々上京しては美術館めぐりをしておりましたが都内に住んでいる現在この地の利を最大限に生かしております。

■音楽：高校時代はフォークグループを友人と組んでおりましたが次第に自ら演奏することからは遠ざかりもっぱら聴くことだけとなってしまいました。今は演奏会に行くことも楽しみの一つとなっておりますが古くはポールマッカートニーやビリージョエルのコンサートに足を運んだり、最近では小椋佳コンサートにも行き、癒されました。また年に数回ですがクラシックの演奏会にも足を運んでおります。本年も新年を迎え早速、MUZA川崎の東京交響楽弦楽合奏団のニューイヤーコンサートを楽しみました。

■読書：夏と冬の休みには司馬遼太郎や子母沢寛などの歴史小説を中心に出来るだけ本を読むようにしています。人の経験にはおのずと限りがありますが本を通して学ぶことも多く、また素敵な出会いもあります。異なる分野を知ること医師としての感性を高めることにつながるように思うのです。

以上、とりとめもなく私の下手の横好きの一端をご紹介しました。

趣味を通してはこれまで多くの方々と出会いがありそして学ぶことができました。仕事を通じての周囲の方々への感謝はもちろんですが、趣味を通じて知り合った仲間たちには感謝の念で一杯です。特に石心会ではチームHAPPY（駅伝チーム）やテニス部の仲間たちから若いエネルギーを吸収することができ、また日ごろから感じることはOFFの会に参加することでメンバーの互いの顔が見え、それが相互理解につながります。このことが職場での心地よい笑顔にも通じるとおもうのです。人生は後戻りのできない片道切符の旅であります。一瞬一瞬を大切に、これからも何事にも「一所懸命」、悔いすることなく全力投球を心がけていきたいと思っています。

以上、拙い文章を最後まで辛抱強くお読みいただき感謝申し上げます。

同好の方がいらっしゃいましたらお気軽にお声がけいただければと思います。

一参考まで一

走りに関心のある方：駅伝チーム「HAPPY」
連絡先：川崎幸クリニック 事務山口氏
テニスに興味のある方：年4回 合宿
連絡先：川崎幸病院 施設課 斉藤氏
合宿年間予定スケジュール

第1回目	4月26-27日	山中湖方面
第2回目	6月28-29日	白子方面
第3回目	9月27-28日	軽井沢方面
第4回目	11月22-23-24日	白子方面



〈テニスチームメンバーとともに〉

ミュージック・サロン



■さやま総合クリニック

ヘルシーコンサート♪

毎月開催の「さやま総合クリニック ヘルシーコンサート」、今回は12月22日(土)に開催された「クリスマスコンサート」をご紹介します。

クリスマスまであと数日、この静かな冬の夜に奏でられるのはショパンのピアノ曲です。演奏前の会場は今始まろうとするメロディに期待を込めながら静かに息を潜めています。演奏が始まりました。「幻想即興曲」では夢見るような甘さと狂おしいほどの熱狂のフレーズが、「バラード」では静かで物悲しいメロディが、会場はいつしか、紡ぎ出されて来るショパンの熱情に包み込まれました。

■日 時：12月22日(土)18:30～20:00 「クリスマスコンサート」

■出 演：垣内理恵子、楠木由希子、赤木 舞(ピアノ3名)

■曲 目：幻想即興曲、軍隊ポロネーズ、バラード第4番 他

※演奏家プロフィール 垣内理恵子：国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業後2003年渡独。ドレスデン音楽大学教授デトレフ・カイザーに師事。第12回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。現在、一音会ミュージックスクールにて後進の指導にあたっている。楠木由希子：国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。2005年、2006年、ドイツWasserburgにてサマーセミナーに参加、演奏を高く評価されドイツの新聞に掲載される。現在、後進の指導にあたる傍ら、ソロ、アンサンブルの演奏活動を行っている。赤木舞：イーストマン音楽学校ピアノ専攻卒業、同大学院修士課程修了。ニューヨーク国連本部にて日米親善演奏を行うなど欧米での演奏会に多数出演。現在、東京芸術大学大学院応用音楽学専攻、博士課程に在学中。現在、さやま総合クリニックヘルシーコンサートマネジメント担当

☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師(現狭山病院長)が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニストコンディ・リが練習用に愛用したものです。

★トピックス④

【川崎幸病院】

●10月10日 防災訓練

●10月15日 フジTV『スッキリ～神の手を持つ名医たち～』にて

山本晋大動脈センター長が取り上げられる

●11月11日 電気設備改善目的による全館停電。災害時シミュレーションを兼ねる

●11月15日 新機種入替：16列マルチスライスCT運用開始

●12月8日 第20回うるおいコンサート(管弦楽五重奏)

●12月13日 第3回コメディカル&事務合同研究発表会

●12月27日 新機種入替：MRI(1.5T)運用開始

●出張講演

・10月18日 幸警察にて警察職員向け勉強会『生活習慣病について』(講師：沢内科部長)

●定例救急隊勉強会(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)

・10月23,30日 『めまいと脳卒中』(講師：脳神経外科部長/神林智作) 参加者計45名

・12月4,5日 『病院スタッフとの電話によるコミュニケーション』

(講師：内科医長/向原圭) 参加者計14名

●院内勉強会

・10月9日 医療事故防止セミナー『医療トラブル・個人情報保護』(講師：桑原博道弁護士)

・10月11日 院内感染対策勉強会『院内感染と感染対策』
(講師：明治製菓株式会社/嶋村悠人医薬情報担当)

・11月29日 薬剤科主催勉強会『メタボリック・シンドロームと脂質異常症(高脂血症)について』

●NST委員会主催勉強会

・10月24日 『固形・半固形栄養剤について』

・11月28日 『NSTと看護師の関わり』

・12月26日 『内視鏡的胃瘻造設術』

【狭山病院】

●10月1日 地域連携診療計画管理料、地域連携診療計画退院時指導料(大腿骨頸部骨折)施設基準届出(武蔵嵐山病院)

●10月13,14日/20,21日,27,28日 1泊2日職員旅行 参加者：合計166名
行先：伊香保温泉、ソーセージ作り体験、群馬サファリパーク

●11月10日 研修医症例発表会(初期及び後期研修医による発表13題)

●11月11日 日帰り職員旅行 参加者：106名(職員63名/家族43名)
行先：横浜中華街、横浜八景島シーパラダイス

●11月12日 所沢保健所による医療法第25条第1項に基づく立入検査

●11月22日 防災訓練(非難訓練、消火訓練、通報訓練)

●11月30日 看護師復職支援講習会(参加者9名)

●12月8日 看護研究発表会(13題発表、参加者99名)

●12月15日 保育室クリスマス会(参加児23名)

●12月20日 クリスマスキャロル～職員による聖歌隊45名が3班にわかれ病棟をまわりました。

●12月26日 献血(埼玉県赤十字血液センター主催)
～年末年始の血液不足の時期、76名の職員が献血に協力しました。

●院内勉強会

・11月6,15日 『MRI安全講習会(新入職員対象)』 参加者55名

・11月30日 『接遇研修～クレーム対応～』 参加者97名

・12月11,13日 『当院における医療安全対策の取り組み』 参加者131名

●地域医療連携・公開カンファレンス

・10月12日 『C型肝炎—治療法の進歩と病診連携の重要性』
(講師：埼玉医科大学第三内科教授/持田 智) 参加者55名

・10月23日 『透析液浄化の最近の話題』(講師：矢吹病院院長/政金生人) 参加者53名

・11月16日 第5回地域医療支援病院運営委員会

・11月21日 『成長と寿命を司るシステム』(講師：東京女子医科大学准講師/大久保由美子)

・11月29日 『病・病連携懇談会』 参加者64名 参加者57名

・12月7日 『救急医療システムとしてのブレインアタックへの取り組み—PCEC・PSLS—』
(講師：埼玉医大医療センター高度救急救命センター教授/堤 晴彦) 参加者97名

・12月14日 『(Ⅰ)糖尿病フットケアの現状—看護師の立場から—』
(講師：小川赤十字病院看護師長 糖尿病看護認定士)

『(Ⅱ)糖尿病合併症の成因論とその治療』
(講師：内科副部長/三好洋二) 参加者118名

【川崎幸クリニック】

- 11月5日 新規導入:オープンMRI運用開始
- 11月10日 第19回うるおいコンサート(ピアノ、フルート、声楽)
- 11月12日 新機種入替:64列マルチスライスCT運用開始
- 11月30日 長崎県立佐世保西高等学校より訪問研修で来院 来院者8名
- 12月1日 糖尿病公開講座 9名参加
- 12月8日 第20回うるおいコンサート(管弦楽五重奏)
- 気功教室 講師 臨床心理士 稲富正治
 - ・10月24,26日 参加5名
 - ・11月14,21日 参加計9名
 - ・12月14日 参加計3名
- 食事の教室 管理栄養士
 - ・10月18日 『高血圧予防の食事』～塩分の適量を知る～ 参加者7名
 - ・11月21日 『便秘予防の食事』参加者5名
- 心理相談室公開講座 臨床心理士
 - ・10月24日 『思春期の親離れ・子離れ』 参加者5名
 - ・11月7日 『リラックス健康法』 参加者12名
 - ・12月5日 『人付き合いのヒント』 参加者5名

【さやま総合クリニック】

- 外来糖尿病教室 参加者各回15名
 - ・10月4日 『食事療法 秋のお弁当を研究!』(講師:管理栄養士/大川 清)
 - ・11月1日 『運動療法について』『足の手入れについて』(講師:理学療法士/上原, 看護師/臼井)
 - ・12月6日 『冬の食事療法』『ご自分の薬の働き、ご存知ですか?』『年末年始のお食事』:年末年始の食品摂取の注意点。(講師:管理栄養士/蒲池, 薬剤師/川鍋)
年末年始のクリスマス料理やおせち料理を食べた時のエネルギー量、食べ方の注意点などについて参加者へご指導しました。

【川崎クリニック】

- 12月9日 第6回石心会グループCE合同ミーティングおよび研究発表会を川崎クリニックにて開催。 参加者 医師2名/CE56名
- 12月9日 腎友会忘年会 当院からの参加 医師2名/看護師1名/事務1名

【アルファメディック・クリニック】

- 12月15,16日 第1回特定健診・特定保健指導実践者育成研修会 修了者2名

【川崎健診クリニック】

- 12月17日 全国労働衛生団体連合会 機能評価審査

【新緑会脳神経外科】

- 10月27日 防災訓練実施 参加者19名
- 12月6日 第4回院内勉強会
 - 『機能脳神経外科～パーキンソン病の外科治療』(講師:副院長/吉水信裕)
 - 『DPC算定と日帰り定位放射線治療』(講師:事務長/吉野良平) 参加者34名